

新球場の概算・・・Phase 2 (現市民球場解体撤去後、新球場を建設する場合)

Phase 1に対して増額となる要素

1. 現市民球場の解体撤去に関する工事費。

広島市内の解体・処分費の確認。

2. 建設資材の荷降ろし、ストックヤードの確保。

新球場延床面積の約3分の1のスペース確保が必要。
新球場の延床面積を約30,000㎡とした場合は、約10,000㎡のヤードとなる。

3. 建設地が狭いため大型車両による効率的な資材の搬出入が困難になることが予想される。従って、小型車両による非効率工事が予想されるため、それにかかる経費を上乗せする。

解体工事を含む全工事金額の約15%の計上。

概算工事費

野球場総合計(A)	9,949,000,000	・・・ Phase 1
解体撤去工事(B)	750,000,000	30,000㎡X25,000円
(A) + (B)	10,699,000,000	・・・ ()
敷地条件による割増金額(C)	1,605,000,000	() X 15%
(A) + (B) + (C)	12,304,000,000	・・・ ()
共通仮設費・諸経費(D)	2,584,000,000	() X (3% + 3% + 15%)
() + (D)	14,888,000,000	138.5億円
消費税	744,000,000	
工事費合計	15,632,000,000	
ストックヤードの借地料	400,000,000	
建設事業費合計	16,032,000,000	

建設事業費合計、Phase 1と比較すると34億円のアップ